

# 熊本被災史料レスキューネットワーク

熊本被災史料レスキューネットワーク(熊本史料ネット)は、2016年の熊本地震を契機に設立されたボランティア団体です。熊本地震および令和2(2020)年7月豪雨で被災した地域歴史資料の保全・活用に取り組んでいます。

## 1 | 概要

熊本史料ネットは、熊本県内の大学教員や博物館等の学芸員を中心に運営されています。2016年4月の熊本地震直後から自発的に活動を開始し、同年6月以降は、文化庁や熊本県教育庁文化課による「文化財レスキュー事業」との連携を続けています。文化財レスキュー事業で救出された被災歴史資料は、熊本地震の場合は47件(資料総数は約39,300点)、令和2年7月豪雨の場合は17件(資料総数は934点)に上ります。

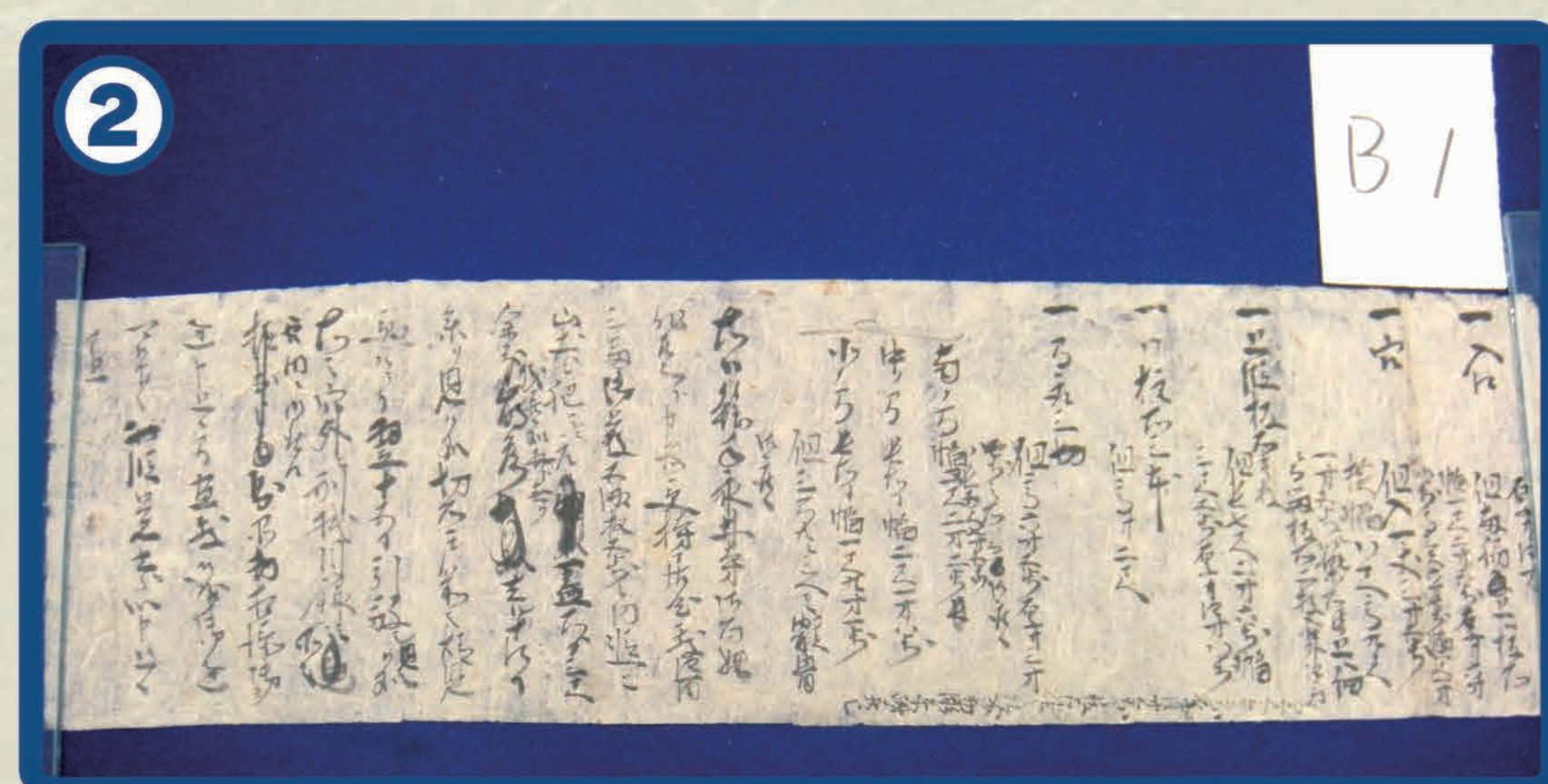


## 2 | 活動紹介

被災歴史資料の救出以外の活動としては、①市民向け講演会の開催、②被災資料の調査・研究、③被災資料の「価値」付け返却事業、の三点があげられます。

①は、講演会「学んで守ろう熊本の歴史遺産」の開催です。地域歴史資料の保全のためには、それに対する市民的理解の増進が不可欠です。熊本史料ネットでは、被災資料がもつ歴史的価値、被災後の現状や課題、調査・研究に基づく新知見を、2017年から市民に発信し続けています(2022年2月現在で計7回開催)。

熊本史料ネット主催講演会「学んで守ろう熊本の歴史遺産」		4	「被災史料が語る日本近世史・近代史」 講師: 稲葉穂穂氏・今村直樹氏 / 於熊本県立美術館 2018年5月
1	「大慈禅寺と本妙寺—被災寺院の知られざる歴史と現在—」 講師: 伊藤幸司氏・中野孝氏・平川新氏 / 於熊本県立美術館 2017年3月	5	「被災史料が語る井寺古墳—未指定文化財と国指定史跡との間—」 講師: 三澤純氏・横口剛士氏 / 於熊本県立美術館 2018年12月
2	「阿蘇神社—被災神社の歴史再発見—」 講師: 伊東龍一氏・春田直紀氏・ヨーゼフクライナー氏・池浦秀隆氏 / 於熊本大学 2017年10月	6	「シンポジウム 文化財の被災と救済—3年目の中間報告—」 講師: 稲葉穂穂氏・有木芳隆氏・伊東龍一氏・長谷部善一氏・山田貴司氏 / 於熊本県立美術館 2019年4月
3	「熊本の歴史地震に学ぶ」 講師: 保立達久氏 / 於熊本大学 2017年12月	7	「球磨川水害による被災文化財—現状と課題—」 講師: 川路祥隆氏・有木芳隆氏・高納恵介氏 / オンライン開催 2021年7月



②は、被災資料の歴史的価値を明らかにするための調査・研究です。庄屋の家に伝来した「有馬家文書」からは、国指定史跡井寺古墳(上益城郡嘉島町)に係る古文書が発見され、幕末期の古墳発見の経緯を詳細に復元することができました(三澤純「被災地熊本で見た『明治一五〇年』と私たちの課題」『歴史評論』842、2020年)。

③は、救出した古文書を所有者に返却する際、併せて作成した目録と解題を渡す事業です。ここでは、目録と解題を作成することで古文書がもつ価値(家や地域の歴史の証言者としての重要性)を理解してもらい、今後の資料保全につなげることが意図されています。



## 3 | 最近の活動

令和2年7月豪雨により、熊本県南部では多くの文化財が被災しました。熊本史料ネットは、発災から一年後の2021年7月、被災地の文化財の重要性とそれらの被災状況をひろく発信すべく、第7回目の講演会「球磨川水害による被災文化財—現状と課題—」をオンラインで開催しました。現在、熊本大学永青文庫研究センターHPで講演動画を公開中です。

また、文化財保護法の改正を受けた熊本県は、2021年3月に「熊本県文化財保存活用大綱」を策定しましたが、ここには熊本史料ネットの意見が反映され、未指定文化財の所在把握のための悉皆調査の実施が明記されました。今後も、研究者・文化財行政担当者・市民・所有者と協力しながら、地域歴史資料保全のための取り組みを続けていきたいと思ひます。

